

県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

第37号

令和6年8月22日

○特集 P1～2

○農林関係の動き P2～12 ○GAP取得者紹介 P13

○頑張る農林業者 P13 ○お知らせ P14

お問い合わせはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314

特集

JA トップセールスに参加しました！

当事務所管内のJA 夢みなみとJA 福島さくらでは、今年も各JA産の野菜や果物の販売促進と販路拡大を推進するため、組合長や管内の市町村長によるトップセールスを行いました。当事務所からも参加しましたので、その概要を報告します。

【JA 夢みなみ】

6月20日（木）～21日（金）、神奈川県横浜中央卸売市場、横浜丸中青果(株)において、^{ささきかずなり}佐々木一成組合長をはじめ、須賀川市・岩瀬地域・石川地域・白河市・西白河地域の市町村長ほか関係機関の計37名が参加し、夏秋野菜等のPRが行われました。

佐々木組合長から「品質にこだわり、安全で安心な野菜を皆様に届けていきたい」と場内の卸売の方々に呼びかけたほか、参加市町村を代表し鏡石町、浅川町、西郷村から産地のPRが行われました。その後、キュウリとトマトの詰め合わせを市場関係者に配布しましたが、たくさん準備していた配布分がすぐなくなるなど、大盛況のうちにトップセールスは幕を閉じました。



【会場に展示した野菜】



【PR用の野菜を配布する様子】

【JA 福島さくら】

7月18日（木）～19日（金）、郡山市の農産物直売施設「あぐりあ」において志賀博之組合長をはじめ、郡山市、田村地域、いわき市、相双地域の市町村長ほか生産者代表や関係機関・団体の計48名が参加し、夏秋野菜等のPRが行われました。

例年、京浜地区の市場にて卸売りの方々を対象に行われていたトップセールスですが、今年は市場関係者に地元福島へ来ていただき、意見交換や産地視察を行ったほか、地元の消費者を対象に販売促進活動を行いました。最初の志賀組合長の挨拶では、「命の源である食を守るべく、安心安全なものを生産している。野菜を買って農家を応援して欲しい。」と地産地消を呼びかけました。その後、県内産のピーマン、キュウリ等の野菜の詰め合わせを来場者へ配布し、大盛況のうちにトップセールスは幕を閉じました。

当事務所においても、引き続き、県中地域の農産物の消費拡大に積極的に取り組んでまいりますので、本ニュースをご覧の皆様にもご協力をお願いします。

【来場者にPR用の野菜を配布する様子】



日本なし「二十世紀」をベトナムに輸出します

【農業振興普及部】

郡山市のなし産地では、平成29年から日本なし「二十世紀」をベトナムへ輸出しています。

今年も、輸出予定なし園の現地検査を担当する郡山市や当部の職員が、5月8日（水）に農林水産省横浜植物防疫所主催のベトナム向け輸出なし生果実補助員講習会を受講し、検査内容や制度の理解を深めました。

講習を受けた職員は植物防疫所の植物防疫官とともに、5月16日（木）～17日（金）、23日（木）～24日（金）に春期検査を実施し、病害虫発生状況や栽培管理状況を確認しました。

8月には収穫前検査、出荷時にも検査が実施され、こうした厳しい検査に合格した「二十世紀」のみがベトナムへ輸出される予定です。



【なし園地を検査する横浜植物防疫所の植物防疫官】

郡山市立西田学園の児童が田植えをしました！

【農村整備部】

5月14日（火）郡山市立西田学園5学年児童35名が、「ふくしまの農育」推進事業による体験学習で田植えを行いました。

児童たちは、田んぼを維持管理している多面的活動組織の農家の方々から指導をいただき、苦戦しながらも上手に苗を植えることができました。

「田んぼの中を歩くのは大変で、苗を植えるのも難しかったけど、自分たちが植えた苗のお米を食べることが楽しみ。」と農業の楽しさを感じている様子でした。

今後の活動では、稲刈り、収穫祭を予定しています。



【田植えの様子】



【講師の説明を聞く児童】

森林病虫害等被害対策地区連絡協議会を開催しました

【森林林業部】

5月14日（火）に、県郡山合同庁舎において、森林病虫害等被害対策地区連絡協議会を開催しました。会議には、県中地方の市町村、森林組合、林業・木材関係団体、養蜂団体等が参集し、松くい虫をはじめとする森林病虫害等の広域かつ徹底した防除事業の推進、特別防除の実施にあたり、農薬適正使用の徹底、危害防止のための連携体制を確認しました。

今年度も森林病虫害の防除に際し薬剤の安全かつ適正な使用を徹底するとともに、松くい虫被害対策にあっては、伐倒駆除のほか、守るべき松林の周辺での樹種転換を推進していきます。



【協議会の状況】

特用林産功労者として表彰されました

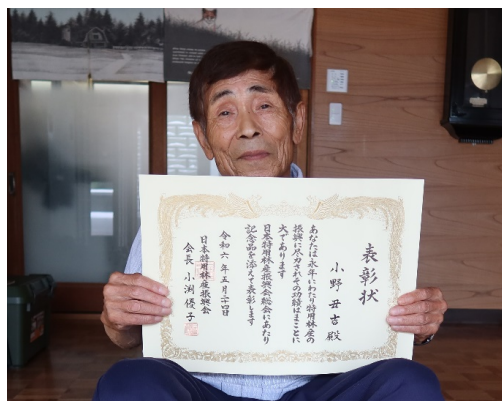
【森林林業部】

小野町の^{おのうしきち}小野丑吉さんが、日本特用林産振興会より第37回特用林産功労者として表彰されました。

小野さんは、20歳からしいたけ栽培を始め、県内でも先駆的な原木しいたけ栽培者として60年にわたり取り組んできました。露地栽培が一般的だった当時、ハウス内でほだ木を一貫して管理することを試み、植菌からしいたけ発生までの期間を短縮、労働作業の軽減を図る栽培技術確立しました。その技術は栽培セミナーの講師として、また、研修で訪れた県外の生産者などにも惜しみなく伝え、原木しいたけ栽培の振興に尽力された功績が評価され、今回の受賞となりました。

震災の影響で植菌本数は以前より少なくなっていますが、今でも原木しいたけでは県内随一の生産量を誇る小野さん、今後もその技術を後進に継承してくださることを期待します。

【小野丑吉さん】



小野さんの原木しいたけで作ってみた！

●しいたけの唐揚げ

- ① しょうゆ、みりん、すりおろしたにんにくを合わせる。
- ② しいたけを一口大に切り、①に浸ける。
- ③ 水気を拭いて片栗粉をまぶし、ごま油でさっと揚げる。

※ご飯のお供にも、お酒の肴にもぴったり！



【監修：野菜ソムリエプロ・K】



【ふくしまを応援する『ベコ太郎』】

献穀田で御田植式が行われました！

【須賀川農業普及所】

令和6年度の献穀者に鏡石町の添田孝夫^{そえたたかお}さんが選ばれ、去る5月27日（月）に献穀米の御田植式が行われました。

献穀とは、宮中恒例行事の中で最も重要な儀式である「新嘗祭」^{にいなめさい}に供するための新穀を、各都道府県で選ばれた精農家が献納するものです。

神事後、早乙女に扮した岩瀬農業高校の生徒や町の職員により、県オリジナル品種「天のつぶ」の苗が丁寧に手植えされました。

秋には稲を収穫する抜穂式^{ぬいぼしき}を行い、10月下旬に皇居で行われる献穀献納式で精米5合を献納する予定です。



【手植えする早乙女たち】

（一社）モクティ倶楽部第3回植樹活動が行われました！！

【森林林業部】

6月2日（日）、田村市常葉地区^{ときわ}（田村森林組合新工場予定地）において、一般社団法人モクティ倶楽部主催の第3回植樹活動が行われました。

植樹活動には、同法人の会員をはじめ多くの親子、地元からは田村市、林業事業者、当事務所森林林業部職員等の約230名が参加し、スギ1,000本、ヒノキ500本、カラマツ500本あわせて2,000本の苗木を植えました。

多くの方の協力のもと行われた植樹活動は、森林をみんなで守り育てる意識の醸成につながると思います。緑豊かな森林を次の世代へつなぐため、森林づくりの輪を広げていきましょう。



【植樹活動の様子】

松くい虫防除のため特別防除を実施しました

【森林林業部】

6月4日（火）に、須賀川市においてマツノマダラカミキリの羽化脱出時期に合わせて、ヘリコプターで薬剤を散布しました。使用する薬剤は環境への影響を最小限に抑えるよう配慮されており、人や動物に対しても安全性が確認されています。また、散布エリア周辺には事前に通知し、散布区域への立ち入りの制限をお願いすることで、危害防止対策を徹底しています。

この施策により、守るべき松林の保全と地域の環境を守ります。住民の皆様のご理解とご協力をお願いします。



【須賀川市牡丹園での散布状況】

流域治水に向け、石川町で田んぼダム研修会を開催しました

【農村整備部】

田んぼダムは、平成14年から新潟県が全国に先駆け、取り組みが始まりました。現在では、その雨水の貯留機能の有効性が全国に周知され、福島県でも約530haの水田で実施されています。県中管内では、郡山市、鏡石町など7カ所、約86haで実施されています。

今回、6月7日（金）に石川町モトガッコ及びほ場整備事業沢井地区^{さわい}を会場に、関係農家の方、県中農林管内の市町村や土地改良区の職員などが広く参集し、田んぼダムについて研修会を開催しました。研修会では、農村振興課から田んぼダムの目的や仕組みについて説明があり、日本大学工学部の^{あさおか}浅岡教授より、これまでの取組みの経緯や学生による研究の状況、田んぼダムの効果などについてご講演を頂きました。県では今年度、この研修を県内各方部で開催し、取組みの推進を図っているところです。また、この研修を通して、農地の多面的機能の一つである洪水抑制機能を理解していただければ、水害軽減のみならず、美しい農村環境の維持・保全にもつながることと思います。



【研修会の様子】

きゅうりの栽培指導会を開催しました

【農業振興普及部】

郡山市、JA福島さくら及び当部等を構成員とする郡山地域きゅうり振興プロジェクトチームが主催し、6月18日（火）、7月22日（月）に郡山市内のきゅうりほ場で栽培指導会を開催しました。

これまではJAの支店単位で指導会を行っていましたが、きゅうりの品質向上と体制の統一化を目指すために、今年度初めて郡山市内全域での参加を呼びかけ実施しました。

指導会では、品種特性に応じた栽培管理や病虫害防除、最近の農薬資材の状況などについて情報提供を行いました。参加した生産者たちはきゅうりの生育状況を見ながら熱心に情報交換を行っていました。

今後も、きゅうりの一大産地を目指して活動を継続してまいります。



【きゅうり栽培指導会の様子】

第8回JA夢みなみ育成管理共進会が開催されました

【須賀川農業普及所】

6月15日（土）、JA夢みなみ畜産課石川駐在事務所駐車場にて、「第8回JA夢みなみ育成管理共進会」が開催されました。

月齢や繁殖成績などの出品条件に分けられた4区分に、須賀川普及所管内から計28頭が出品され、体型や資質、品位等について審査されました。

その結果、管内からは9頭が優等賞に選出され、佐久間利靖さん（須賀川大東支部）の「ひめふく」号がグランド・チャンピオン賞を獲得しました。

優等賞に選ばれた9頭は、7月12日（金）に福島県家畜市場で開催された「JAグループ福島肉用牛共進会」にJA夢みなみ代表として出品されました。



【佐久間さんと「ひめふく」号】

6月19日（水）、県立郡山北工業高等学校の建築科1年生39名を対象に、郡山市安積町にある県林業研究センターにて森林環境学習講座を実施しました。

生徒たちは、林業用苗木の生産現場や木材関係試験研究施設を見学し、建築に利用される木材がどのようにして生産され、特徴の異なる木材が建築の部材としてどのように活かされるのか学習しました。

また、林業を担う林業従事者を育成するための研修施設「林業アカデミーふくしま」も見学しました。生徒からは「少花粉スギや無花粉スギが作られているのを改めて知った」「木材の加工と利用について興味を持った」などの感想があり、林業への理解と関心を深める機会となったようです。



【林業用苗木生産の説明】



【木材関係試験研究の紹介】

エゴマ定植会が開催されました！

【田村農業普及所】

6月20日（木）、田村市船引町の田村市エゴマ振興協議会のは場にて、エゴマ苗の定植会が開催されました。定植は定植機を使用して行われました。また、定植会には新規就農希望者も参加しており、興味深く作業を見学していました。

田村市エゴマ振興協議会が生産する「たむらのエゴマ油」は、令和5年1月に地理的表示（GI）保護制度に登録され、国内からの注目も集まり注文も増えています。協議会では、品質にこだわったエゴマ生産を徹底するとともに、エゴマを使用した商品の開発やエゴマ油の輸出を目指し、新たな販路の開拓にも力を入れています。



【定植機を使用して苗を植える様子】



【きれいに一列に植えられた苗】

きゅうり基礎力アップ研修会を開催しています

【須賀川農業普及所】

今年度も須賀川農業普及所主催で、須賀川・石川地方のきゅうり栽培年数が概ね5年以下の、経験が浅い生産者を対象とした「きゅうり基礎力アップ研修会」を開催しています。第3回は6月21日（日）に天栄村にて、第4回は7月26日（金）に須賀川市にて現地研修会を行いました。露地きゅうり栽培の篤農家より、栽培管理や日頃の疑問などを直接学ぶことができました。また、普段は交流することがない他の地区の生産者との交流の場となり、栽培に関する新たな技術・知識を習得できる貴重な機会となっています。



【第3回研修会の様子】



【第4回研修会の様子】

福島県特定家畜伝染病対策県中地方連絡会議を開催しました【農業振興普及部】

6月26日（水）、福島県環境創造センター会議室において、県中地方の国関係機関、各市町村、各農業関係団体、建設業協会各支部、各警察署、県関係機関の職員約50名を参集して福島県特定家畜伝染病対策県中地方連絡会議（地方連絡会議）を開催しました。

地方連絡会議では、特定家畜伝染病の防疫対策、発生時の対応、野生動物及び愛玩動物における発生状況や対応等、今年度における今後の取組などについて確認しました。

今回の会議を契機とし、県中地方における家畜防疫対策の体制を強化してまいります。



【特定家畜伝染病の防疫対策（中央家畜保健衛生所からの説明）】

7月8日（月）に県立小野高等学校総合学科2年生8名を対象として「ふくしまの農村学びの場」事業による工事現場等の見学会を実施しました。

県営ほ場整備工事（^{うきがね}浮金第二地区）、^{せんごさわ}千五沢ダム、農業集落排水処理施設（玉川村）について、当所担当職員が工事概要、施設機能や役割等を説明しました。

浮金第二地区では、工事を施工する建設会社の協力により、実際に工事用の重機が動いている様子が見学でき、生徒たちは興味津々でした。「農業に関わる工事現場を近くで見ることができて、とても貴重な体験になった。」と土地改良事業への理解を深めたようでした。



【千五沢ダムでの集合写真】



【県営ほ場整備工事について説明を受ける生徒】

JA 福島さくら たむら地区夏秋野菜出発式が開催されました 【田村農業普及所】

7月10日（水）、田村市船引町のJA船引そさいセンターで令和6年度夏秋野菜出発式が開催されました。式には、JA園芸部会役員、JA役職員、JA全農福島、各運送会社、田村農業普及所など約30名が参加しました。生産販売目標達成と無事故輸送を祈願して、テープカットを行い出発を祝いました。

今年は6月の気温が高く、降水量も多いことから各品目とも生育は良好で、7月中旬から本格的な出荷となり価格も高く推移しています。

令和6年度は、ピーマン6億円、さやいんげん1.3億円、トマト1.21億円など、野菜全体で約9億8千万円の販売金額を目標に、主に京浜市場のほか、県内市場等にも出荷されます。



【テープカットにより出発を祝いました】

郡山市立西田学園の児童が生きもの調査を行いました！

【農村整備部】

7月12日（金）に郡山市立西田学園4学年児童46名が学校周辺の水辺に生息する魚類や水生昆虫等の生きもの調査を行いました。

調査では、講師であるアクアマリンふくしまの職員から採集方法を教わりながら、タモ網を使い上流から魚を追い込んで、魚や水生昆虫を採集しました。はじめは生きものに触ることを怖がっていた児童も、「たくさん捕れた！」と嬉しそうにバケツの中を見せてくれました。

また、生きもの採集後は生態や特徴について熱心に講師の解説を聞いており、自然環境を守ることの大切さを楽しみながら学ぶことができました。



【講師とともに生きもの採集する児童】



【講師による生きもの解説】

「石川地方の夏を体験 グリーン・ツーリズムモニターツアー」を開催しました 【企画部】

7月14日（日）平田村の古民家樹里庵^{じゅりあん}で、「石川地方の夏を体験 グリーン・ツーリズムモニターツアー」を開催しました。県内の小学生の親子17名が、夏の思い出を作りました。

まずはじゃがいもの収穫体験。こぶしより大きなじゃがいももあり、子どもたちは夢中になって、袋いっぱい収穫していました。

次は竹の器と竹の水鉄砲作り。なたを使って竹を割り、やすりをかけて器を作りました。お昼ご飯はこの器で、カレーと朝採れ野菜のサラダを食べました。水鉄砲は少し難しかったようですが、子どもたちはずぶ濡れになりながら笑顔で水鉄砲遊びを楽しんでいました。

最後はあじさいの挿し木苗づくりをしました。このモニターツアーを通して、石川地方が更に活性化されることが期待されます。



【なたで竹を割ります】

「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーン 農林水産物PR（第1回）を開催しました

【企画部】

県産農林水産物の消費拡大及び地産地消を推進するため、「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーンを実施しました。

今回は、7月23日（火）に日本大学工学部（郡山市）で、郡山市内の農産物直売所で購入したGAP（※1）認証商品の展示と、先着200名の方に、県産農林水産物やGAP認証制度についてアンケートを実施し、青春GAP米（※2）とふくなかすいーつ（※3）のプレゼントを行いました。

アンケート結果では、GAP認証制度の認知度は30%でしたが、さらなる認知度の向上を目指し、当事務所では引き続きGAP認証制度のPRを続けていきます。

（※1）GAPとは、Good（良い）Agricultural（農業の）Practice（行い）の略語で、農業生産工程管理と訳され、食の安全性を確保することが目的です。

（※2）県内の農業高校等で生産したGAP認証米。

（※3）主に県産農林水産物を使用し、県中地方で製造・販売されているスイーツ。



【GAP認証商品の展示】



【青春GAP米の配布】

畑作モデル地区実証ほの取組

【農業振興普及部】

主食用米の需要減少や食料自給率向上を背景に、水田を活用した麦類や大豆などの生産拡大が求められていることから、郡山市日和田地区の水稲・大豆生産法人をモデル経営体として、栽培体系や導入技術、収益性などを調査しています。

モデル経営体では、水稲約66ha、大豆約24haを作付けしており、安定した収量と高品質な大豆を生産するため、湿害対策として効果の高いうねたて はしゅ 畝立同時播種やドローンによる病害虫防除など、様々な栽培技術を積極的に導入しています。大豆の導入により、5月は水稲の田植え作業、6月からは大豆の播種作業と時期の分散が図られることにより大規模面積の作業に対応でき、さらに大豆の収益による安定した農業所得の確保も図られています。



【大豆の畝立同時播種の様子】

頑張る農林業者さん

★ 田村市都路町 和牛繁殖経営 富樫法男さん とがしのりお

富樫法男さんは、田村市都路町で和牛繁殖経営を営まれています。両親の経営継承を目指し、市役所や福島県農業経営・就農支援センター、当所と計画的に準備を重ね、令和6年1月に新規就農されました。都路地域の和牛繁殖経営を支える新たな担い手として、周囲からも活躍を期待されております。

現在は繁殖雌牛を18頭飼養されています。今後は、飼養頭数の拡大や家畜人工授精師の資格取得など、さらなる経営発展や技術の習得に向けた準備を進めており、熱意をもって新たな経営に取り組まれています。

田村農業普及所としても、引き続き経営発展に向けた事業活用等を支援してまいります。



GAP 取得者紹介

① 取得者名(市町村) ② GAPの種類(取得した品目) ③ 取得者から一言



【左：橋本須賀川農業普及所長、右：鈴木氏】

① farm 森殿 鈴木 義一 (玉川村)

(ふぁーおもりどの すずき よしいち)

② FGAP (穀物 (米))

③ 農産物は人の健康に一番影響があるもの。GAPを通して、安心・安全な農産物の生産に努めるとともに、GAPの取組みを地域に広めていきたい。

GAPの種類

- ・ GLOBALG.A.P 国際的に広く適用する第三者認証 GAP
- ・ ASIAGAP 日本発の国際基準認証
- ・ JGAP 日本のデファクトスタンダードの GAP
- ・ FGAP 福島県による公的認証 GAP

おしらせ

「福島県森林環境税」アンケート調査ご協力をお願い

「福島県森林環境税」とは、水源のかん養や県土の保全など、私たちの生活に様々な恵みをもたらす森林を全ての県民で守り育て、次の世代に引き継いでいくため、平成18年度から県が導入した県税です。森林の整備や花粉の少ない苗木づくりなどの取組みの支援、植樹イベントや森林環境学習などの森林を守り育てる意識を広げる取組に活用しています。

今後の「福島県森林環境税」の取組みの参考とするため、アンケートを実施していますので、県民の皆さまのご意見をぜひお聞かせください！（森林林業部）

令和6年8月30日（金）まで！！

アンケートの
回答先はこちら



よろしくお願いします



このアンケートは、パソコンからも回答いただけます。

福島県森林環境税 アンケート 🔍 検索

おしらせ

「林業アカデミーふくしま就業前長期研修」令和7年度（第4期）生募集！

林業アカデミーふくしまの就業前長期研修では、充実したカリキュラムと設備の整った研修環境で、1年間基礎から林業の知識と技術を学び、様々な資格を取得できます。林業や自然の中で働く仕事に興味のある方、ぜひご応募ください。

○推薦選考 申請期間 9月2日（月）～ 9月30日（月）、選考日10月11日（金）

○一般選考 申請期間11月7日（木）～11月22日（金）、選考日12月9日（月）



詳しくは、林業アカデミーふくしまHPをご覧ください。メールや電話でのご質問なども対応しております。

（電話024-945-5974）



【↑募集要項はこちらから】

【林業を全く知らない方でも基礎から学べます！】